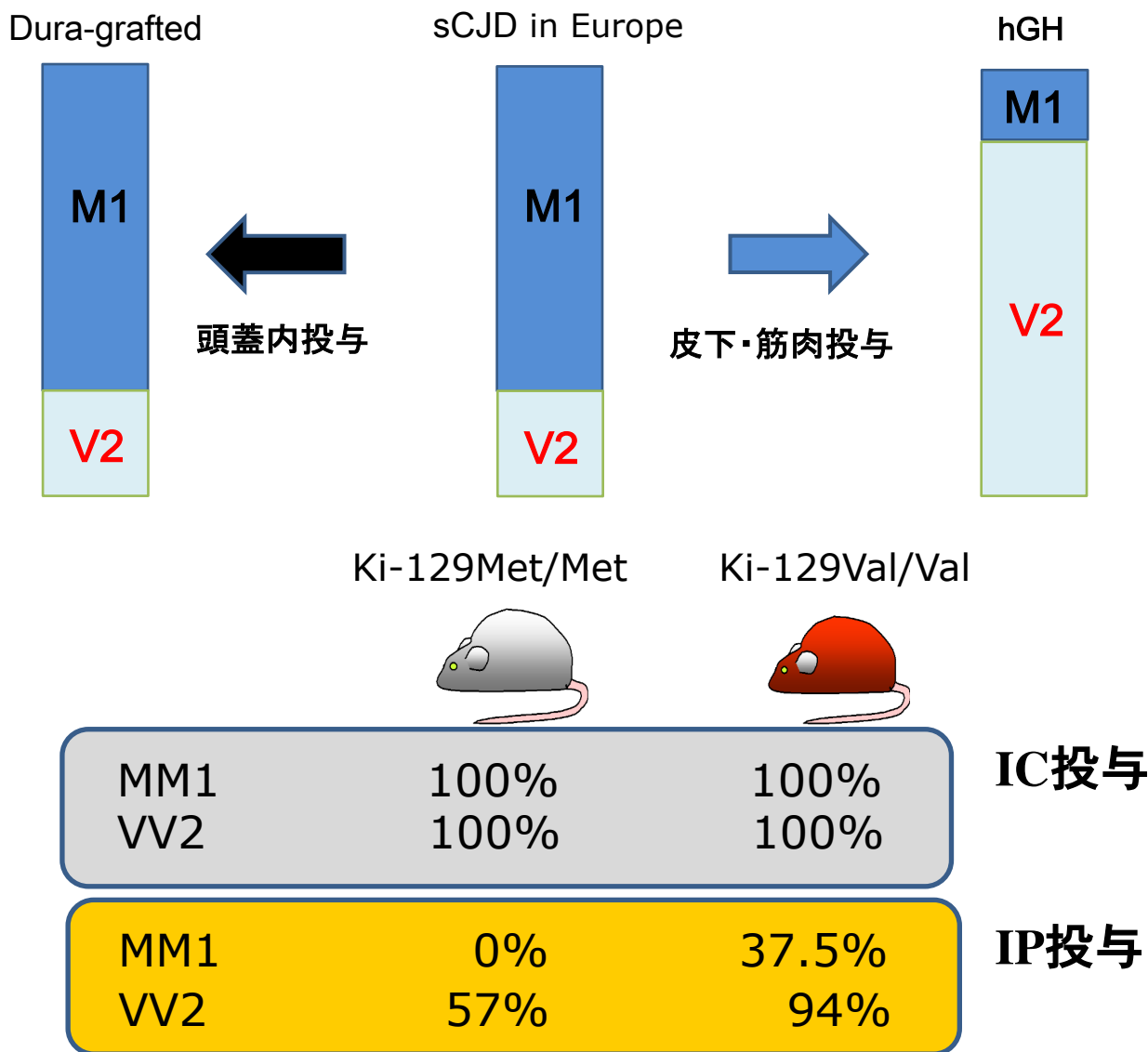


# プリオンは、感染ルートによって感染性がことなる

研究分担者：東北大学大学院医学系研究科 北本哲之



## 解説

1. 同じヨーロッパの孤発性CJD由来だが、硬膜移植と成長ホルモン製剤では感染したプリオン病の種類が全く異なる。
2. 末梢ルート感染と頭蓋内ルート感染で感染性が異なる可能性が出てきた。
3. 感染実験を行うと、頭蓋内(IC)ルートでは全て100%感染したが、腹腔内(IP)ルートでは、MM1の感染成功率が低いことが明らかとなった。